

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年7月6日版)

平成27年7月6日
野菜需給部

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格 (平年)	6月の価格情報			7月 (参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格 (平年)	生育及び価格の7月中旬までの見通し		
		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額						
		上旬	中旬	下旬				
葉菜	キャベツ	67.20 (101%)	68 (103%)	69 (122%)	74.19	・入荷量：15,277t ・主産地：群馬（58）、岩手（13）	・群馬産は、4月下旬以降の干ばつの影響で小玉傾向となっていたが、最近の降雨により解消しつつあり、病害の発生もなく、生育は順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。岩手産は、5月の干ばつの影響で小玉傾向となっていたが、最近の降雨により生育は回復傾向であるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。	
		81.66 (111%)	91 (103%)	84 (111%)	88.91	・入荷量：3,999t ・主産地：群馬（51）、長野（38）	・岩手産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれているものの、群馬産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。	
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	264.10 (153%)	403 (150%)	397 (159%)	421 (159%)	273.33	・入荷量：4,416t ・主産地：茨城（62）、千葉（14）	・茨城産は、一部のほ場で病害の発生が見られるものの、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、一部のほ場で懸念されている害虫の影響は回復傾向にあり、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		334.73 (138%)	462 (105%)	353 (91%)	306 (91%)	487.13	・入荷量：572t ・主産地：香川（31）、徳島（22）、三重（12）、奈良（11）、大阪（7）	・茨城産、千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に上回っているため、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	はくさい	67.05 (142%)	95 (191%)	128 (191%)	88 (131%)	58.82	・入荷量：5,898t ・主産地：長野（87）	・長野産は、定植時の干ばつと低温の影響で苗を植え直したほ場も一部で見受けられたことから、一時的に数量は減少するものの、特段の病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		77.96 (163%)	127 (172%)	134 (172%)	95 (122%)	62.79	・入荷量：2,634t ・主産地：長野（97）	・長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
	ほうれんそう	376.10 (129%)	487 (124%)	466 (129%)	484 (129%)	583.95	・入荷量：965t ・主産地：群馬（26）、栃木（25）、茨城（18）、岩手（12）	・群馬産は、山間部からの出荷が主体となり、最近の降雨で露地物の収穫に遅れが生じているものの、特段の病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、一部のほ場で病害の発生は見られるものの、全体的な出荷に影響なく、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、作付面積の増加や適度な降雨により、特段の病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
		396.89 (131%)	519 (139%)	550 (147%)	584 (147%)	670.86	・入荷量：428t ・主産地：岐阜（83）	・群馬産及び栃木産の出荷が平年並み、茨城産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、価格は平年を下回って推移する見込み。
	レタス (結球)	120.13 (99%)	119 (101%)	121 (101%)	121 (101%)	120.13	・入荷量：9,376t ・主産地：長野（84）、群馬（11）	・長野産は、定植時の干ばつと低温で苗の植え直しを行ったほ場も一部で見受けられたことから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、生育は順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。群馬産は、全体的な生育は順調であるものの、6月中旬以降の豪雨の影響で一部のほ場で傷や病気の発生が見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		125.61 (100%)	125 (100%)	125 (100%)	127 (101%)	125.61	・入荷量：2,359t ・主産地：長野（98）	・群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
	たまねぎ	71.02 (161%)	114 (156%)	111 (156%)	121 (170%)	84.85	・入荷量：9,081t ・主産地：兵庫（36）、佐賀（32）、香川（6）	・兵庫産は、干ばつの影響により小玉傾向であるが、順調な出荷となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。佐賀産は、収穫は終了し、貯蔵物の出荷となるが、小玉であるため、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		71.02 (173%)	123 (155%)	110 (155%)	122 (172%)	84.85	・入荷量：3,394t ・主産地：兵庫（83）、佐賀（6）	・兵庫産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
果菜	きゅうり	189.84 (99%)	187 (119%)	225 (113%)	214 (113%)	210.69	・入荷量：7,829t ・主産地：福島（36）、岩手（17）、秋田（15）、千葉（6）、宮城（5）、埼玉（4）	・福島産は、干ばつの影響により回復傾向となり、病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、露地物は干ばつの影響と一部の産地で雷害を受けたため、生育はあまり良くないものの、ハウス物の生育は順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。秋田産は、一部の産地で干ばつにより生育に遅れが見られるものの、病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		177.22 (95%)	168 (131%)	232 (126%)	223 (126%)	221.71	・入荷量：1,977t ・主産地：福島（29）、愛媛（22）、北海道（18）、香川（7）、宮崎（6）	・福島産、岩手産及び秋田産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
	トマト (大玉)	209.59 (117%)	246 (146%)	306 (130%)	273 (130%)	229.51	・入荷量：8,409t ・主産地：青森（17）、北海道（14）、茨城（8）、栃木（8）、千葉（8）、岩手（8）、福島（8）、群馬（6）	・青森産は、特段の病害の発生もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、6月上旬の低温により生育に遅れが見られたが、現在は生育は回復し順調で、平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。茨城産は、4月上旬の天候不順の影響で草勢は弱いものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、冬春作はほぼ終了し、夏秋作の切り替え時期であるが、生育は順調であることから引き続き平年並みの出荷の見込み。
		228.53 (114%)	260 (121%)	277 (121%)	290 (127%)	271.33	・入荷量：1,928t ・主産地：北海道（37）、岐阜（17）、熊本（13）、愛知（8）	・青森産、北海道産、茨城産及び栃木産の出荷が、平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
	なす	297.07 (117%)	349 (120%)	357 (120%)	357 (120%)	209.55	・入荷量：4,581t ・主産地：群馬（26）、茨城（22）、栃木（22）、埼玉（5）	・群馬産は、5月の干ばつの影響で生育に遅れが見られたが、その後の適度な降雨もあり生育はおおむね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、特段の病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、5月の天候に恵まれ、生育は順調なことから前進出荷傾向で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
		271.01 (117%)	317 (120%)	326 (120%)	314 (116%)	221.72	・入荷量：1,083t ・主産地：山梨（19）、大阪（18）、徳島（18）、奈良（10）、京都（8）、高知（7）	・群馬産及び茨城産の出荷が平年並み、栃木産の出荷が平年よりやや多めの出荷と見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に上回っているため、引き続き平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
	ピーマン	251.50 (136%)	341 (138%)	346 (128%)	321 (128%)	251.50	・入荷量：2,478t ・主産地：茨城（55）、岩手（29）	・茨城産は、春作の出荷が終盤を迎えており、現在の価格が高値で推移していることもあって、出荷を延長していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、露地物は干ばつの影響で生育に多少の遅れがあるものの、ハウス物の生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
		266.65 (109%)	290 (120%)	320 (120%)	345 (129%)	266.65	・入荷量：526t ・主産地：兵庫（16）、高知（15）、大分（13）、青森（12）、北海道（11）、茨城（14）、宮崎（10）	・茨城産の出荷が平年並み、岩手産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
根菜	だいこん	86.59 (72%)	62 (88%)	76 (95%)	82 (95%)	94.60	・入荷量：8,775t ・主産地：北海道（59）、青森（38）	・北海道産は、天候に恵まれ適度な降雨もあったことから、品質も良く生育は順調で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。青森産は、一部の産地で干ばつ傾向であったが、最近の適度な降雨により生育の遅れが解消されると見込まれることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		94.24 (71%)	67 (90%)	85 (90%)	85 (90%)	100.39	・入荷量：2,967t ・主産地：北海道（70）、青森（14）、岐阜（12）	・北海道産の出荷が平年よりやや多め、青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年を下回って推移する見込み。
	にんじん	133.01 (135%)	180 (132%)	176 (98%)	131 (98%)	133.01	・入荷量：6,319t ・主産地：青森（39）、北海道（27）、千葉（26）	・青森産は、干ばつの影響で生育に多少の遅れが見られたが、最近の降雨により肥大が進み生育は回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、適度な降雨もあり、天候に恵まれたことから、品質が良く生育は順調で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。千葉産は、出荷の終盤を迎えて、今後は漸減傾向となり、7月中旬ごろに終了する見込み。
		132.62 (136%)	180 (137%)	182 (107%)	142 (107%)	132.62	・入荷量：2,018t ・主産地：青森（42）、北海道（25）、長崎（14）、和歌山（16）	・青森産の出荷が平年並み、北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、価格は、平年を下回って推移する見込み。

種類		6月の価格情報			7月 (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格(平年)	生育及び価格の7月中旬までの見通し		
		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額						
		上旬	中旬	下旬				
いも	さといも	344.00	476 (138%)	393 (114%)	305 (89%)	344.00	<p>・入荷量：293t ・主産地：宮崎（47）、鹿児島（44）、千葉（5）</p> <p>・入荷量：91t ・主産地：鹿児島（50）、輸入（26）、宮崎（24）</p>	
	ばれいしょ	347.90 (151%)	524 (122%)	424 (100%)	347.90	<p>・入荷量：5,700t ・主産地：茨城（32）、静岡（21）、千葉（19）、長崎（16）</p> <p>・入荷量：2,382t ・主産地：長崎（31）、北海道（30）、千葉（14）、静岡（8）、青森（8）</p>		
	さといも	131.80 (153%)	201 (162%)	213 (187%)	246	101.61		
	ばれいしょ	131.80 (145%)	191 (162%)	214 (196%)	258	101.61		

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指數で修正した価格の平均（消費税は除く。）で保証基準額の算定の基となる価格。

2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を150%以上回るものの、背景色は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く。）。

3 単位は円／kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。

5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷が多い県名。（）内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。

6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス（結球）、トマトについてはトマト（大玉）の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、5月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,968gで前年比97%、購入金額は、2,257円で同113%となつた。

また、小売物価統計によると、6月のキャベツの小売価格は、167円で過去5年平均比122%、レタスは、366円で同116%となり、キャベツ、レタスともに過去5か年平均を上回つた。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額（1人当たりの購入数量と購入金額）

年	過去5年平均		平成26年		平成27年	
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)
1月	4,272	1,640	4,379	1,775	4,374	100
2月	4,485	1,666	4,646	1,742	4,609	99
3月	4,868	1,811	4,958	1,878	4,921	99
4月	4,765	1,855	4,871	1,887	4,693	96
5月	5,089	1,917	5,146	1,993	4,968	97
6月	5,056	1,902	4,998	1,976		
7月	4,402	1,737	4,542	1,770		
8月	4,315	1,731	4,275	1,846		
9月	4,688	1,844	4,745	2,035		
10月	5,191	1,902	5,455	1,973		
11月	4,990	1,700	5,291	1,704		
12月	5,146	1,927	5,233	1,977		

主要野菜の小売価格（東京都区部）

	キャベツ			レタス		
	過去5年平均	平成27年	5年比（%）	過去5年平均	平成27年	5年比（%）
1月	212	229	108	684	827	121
2月	223	202	91	631	576	91
3月	205	169	82	500	511	102
4月	243	255	105	453	555	123
5月	163	273	168	365	440	121
6月	137	167	122	317	366	116
7月	160			332		
8月	138			400		
9月	158			591		
10月	174			469		
11月	164			429		
12月	172			546		

資料：総務省「小売物価統計調査報告」

注：1 過去5年平均は、平成22～26年の平均。

2 平成27年6月の値は、6月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

5月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年同月比103%の7万6千トン、加工野菜は同91%の15万4千トン、野菜全体は、同95%の23万トンとなった。このうち中国産野菜合計は同94%の11万トンとなつた。

生鮮野菜は、前年を上回つたものの、加工野菜が前年を下回つたことから、野菜全体では前年をやや下回つた。

野菜の輸入数量

（単位：トン、%）

区分	平成25年		平成26年		平成27年1月～5月		平成27年5月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同期比	前年同期比	前年同月比	前年同月比
生鮮野菜	854,420	90	884,735	104	385,343	86	76,319	103
加工野菜	1,854,679	97	1,785,487	96	733,431	95	153,810	91
野菜合計	2,709,100	95	2,670,222	99	1,118,773	92	230,130	95
うち中国産野菜合計	1,416,557	97	1,409,604	100	544,508	91	110,499	94
中国産シェア	52		53		49		48	

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

（単位：トン、%）

品目	輸入先	平成26年5月(A)		平成27年5月(B)	
		(B)/(A)	(B)	(A)	(B)
たまねぎ	合計	27,042	25,065	93	
	中国	23,936	19,629	82	
にんじん	合計	5,349	6,373	119	
	中国	4,953	6,145	124	
ねぎ	合計	4,292	4,340	101	
	中国	4,277	4,338	101	

資料：農林水産省「植物防疫統計」

注2：輸入数量は、検査数量である。

注3：冷凍を除く。

4 トピック — 天候不順等の影響が長引いた果菜類の需給動向 —

最近の主要野菜（指定野菜14品目計）の卸売価格は、4月から5月に平年を大きく上回つた後、6月も平年を上回る状況となつた。特に果菜類のトマトやなすは、2月から4月に高値となり、1月から6月を通して平年を上回る状況が続いた。これは、西南暖地や関東近郊等の産地での春先の記録的な低温や日照不足等に伴う影響が長引いたことが要因の一つみられる。

トマトの生育には、適温と日差（屋：25～30度、夜：10～15度）、生育期の日照量が重要である。しかしながら、冬春トマト（12月～翌年6月）の主産地の熊本県と愛知県では昨年12月に低温や曇天となり、関東の主産地の栃木県も2月以降に低温や曇天となり、さらに4月上旬の記録的な低温や曇雨天により、着色不足や小玉傾向などの影響が続いた。4月下旬以降天候は回復傾向となつたが、後続の茨城県も4月の天候不順で着花不良が生じるなど、6月に入って入荷量は回復したが、その影響が続いた。

なすの生育適温は22～30度であり、冬春なす（11月～翌年4月）の主産地の高知県や九州地方等ではトマトと同様、施設栽培が行われている。主産地の高知県や福岡県では、1月から2月の低温や曇天に伴う肥大抑制や着果不良の影響が大きく、卸売価格も一時大きく高騰した。4月下旬以降の天候の回復等から入荷量も6月には回復したが、トマトと同様その影響が続いた。</